

天才アート KYOTO®



天才アートとは、障碍
のある人やひきこもり
者などの多くがもって
いる優れた感性と表

現力、そこから湧き出る独創的なアート
作品に対して、NPO 法人 障害者芸術
推進研究機構（天才アート KYOTO）
が独自にネーミングしたものです。当
機構は天才アートを推進し、その啓発・
普及活動を積極的に行っています。



発行日 2022年12月10日（土）

発行者 特定非営利活動法人
障害者芸術推進研究機構

天才アート KYOTO

発行所 〒603-8226
京都市北区紫野西舟岡町2番地
ふれあい共生館「きたアトリエ」
info@tensai-art.kyoto
http://tensai-art.kyoto

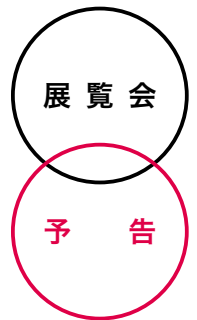
編集協力 株式会社 三六六

天才アート

検索



ゆうだい『きょうとふかめおかしサンガススタジアム』キャンバス・アクリル絵の具 606×727mm 2022 年制作



第7回天才アートがやってきた!! 『公共空間にアートの彩り!』展開催

2023年1月30日(月)から四条通地下通路にて、第7回『公共空間にアートの彩り!』展を開催します。

同展は、2018年1月から京都市など



昨年度開催の第6回天才アートがやってきた!!『公共空間にアートの彩り!』展の様子

との連携により、無機質になりがちな公共地下道などの空間に「アートの彩り」を添えて、華やぎや和みを醸し出す取り組みとして開催しています。

今回で7回目となりますが、多くの市民や観光客等に愉しんでいただき、絵の購入や寄付の音が寄せられるなど、回を追って評判を呼んでいます。

皆さま、今回もぜひお近くをお通りの際はお立ち寄りください。

会場…四条通地下通路の中央の柱列

(駄屋町付近地下、柳馬場通地下付近の約100m)

展示期間…2023年1月30日(月) 正午

～4月2日(日)

内容…B1判作品ポスターパネル50点を予定

『青空美術館』14号開設

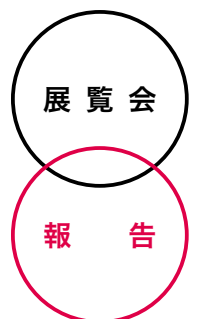
工事現場の囲い塀に、作品アーカイブデータを活用した「大型作品パネル」を展示する『青空美術館』の第14号を開設します。

会場は、京都市立北総合支援学校の分校建設現場です。現地は市立小学校の統合により、2020年に閉校した元格致小学校の校舎の改修工事を予定しています。

展示期間…2023年2月1日～24年3月頃まで。

所在地…京都市下京区高辻通油小路北西角付近の囲い塀約50m

作品パネル…1350×900mmの大型耐候性パネル25点を予定



京都絵本フェスティバル in 花園大学で作品を展示

9月10日(土)、京都市中京区の花園大学で開催された京都絵本フェスティバルに協力して作品を展示しました。

同フェスティバルは、花園大学地域連携教育センターと上七軒文庫合同会社の主催、京都市や京都市中京区、京都市右京区、臨済宗妙心寺派、公益財団法人仏教伝道協会、金剛禪総本山少林寺、金剛禪総本山少林寺京都教区の後援のもと、絵本の読み聞かせを通じて、子ども(と大人)の心を育むことを目的に企画されたものです。

同大学返照館を主会場に、1階では3つの会場で読み聞かせを、2階では「天才アート展」による絵画の展示のほか、絵本を自由に読める広場や絵本の物販などを開催。

「天才アート展」では、複製画20点を展



京都絵本フェスティバル in 花園大学の様子

示したほか、ポストカードやクリアファイル、ふろしきなどの物販も行いました。展示会場には多くのお子さま連れのご家族が訪れ、天才アートKYOTOの活動を知っていただく良い機会になりました。

【ご報告】

作品アーカイブの利用事例紹介

作品アーカイブデータを利用していただいた事例をご紹介します。

株式会社増田医科器械さまの広報誌「MASUDAナウ4・5号」の表紙、秋田県潟上市の社会医療法人正和会グループの「感動のひと言」冊子表紙、(公財)世界人権問題研究センターの季刊誌「グローブ」の表紙です。

いずれも作品のもつ個性や力が十分に発揮されて好評です。



京セラギャラリー2022秋季特別展、好評裏に終了！

去る10月1日（土）から11月6日（日）までの37日間にわたり、京セラ本社1階にあるギャラリーにて2022秋季特別展『細部に宿る』が開催されました。

京セラギャラリーでは、ピカソ作品などの所蔵作品の常設展とともに、毎年秋季などに各地の美術団体やアーティストにフィーチャーした「特別展」を開催してきましたが、今回初めて障碍のある作家・作品に焦点を当てて開催されました。

本展は、当機構が主催者の京セラさまと



10月9日（日）、伏見区民を対象に開催された大場多知子氏によるアーティストトーク

京都新聞さまより委託を受けて、昨年度より打合せを行いながら、作家・作品の選定・集約から展示作業まで、全般にわたり企画をしました。

会場いっぱいには当機構所属作家13人と京都市在住の気鋭作家5人の作品を展示し、美術専門誌『美術手帖』のWebサイトにも取り上げられるなど注目を集めました。

おかげで来場者も2千人を超えるなどたいへん好評でした。

（写真撮影：服部 亜美）



京都新聞チャリティー美術作品展 「特別展示」



チャリティー美術展の入場室で特別展示

2022年8月17日（水）～22日（月）、京都高島屋7階イベントホールで開催された第40回 京都新聞チャリティー美術作品展の「特別展示」は、福祉のページ「わたしの作品」原画展に出展しました。

同チャリティー展の特別展示は第34回より特設され、当機構は毎年出展しています。今回は、毎週月曜日の京都新聞朝刊に掲載された作品の原画を展示紹介。

チャリティー美術作品展に出展された各界の方々の作品とはまた趣の異なる作品もあり好評です。また、今回初めて展示作品購入のご希望がありました。

TENSAI ART NOTE

天 オ
ア ア
ー ト
ノ ー ト

三津田 一輝



『棟方志功 達磨西来図』 クレパス、画用紙 545×395mm 2017年制作

三津田 一輝 Mitsuda Kazuki 1993年生

三津田は、図鑑や画集などからモチーフを選び出して描きますが、彼の手にかけるとそのどれもが生き生きとのびのび奔放に、そして時にユーモラスにデフォルメされることが大きな特徴です。彼の作品が多くの見る者を引きつけてやまないのは、描かれたモチーフの一つ一つが、鮮やかな色彩を通じて生命を宿すからかもしれません。



『つる』 クレパス、色画用紙 392×542mm 2019年制作

山川 隆晟 Yamakawa Takaaki 1992年生

山川は色鉛筆を用いて、実在の神社や寺やビルなどの観光名所をスケッチブックに描き続けます。建物や植物は細部まで丁寧に描き、名所には日本語・ローマ字併記で最寄り駅の情報、時には建物の解説も書きます。さながらガイドブックのようで、彼の絵を前にするとそこを訪れたいくなります。以前から「京都」や「奈良」を好んで描いていましたが、近年は「大阪」や「東京」など都市部を描くことが多くなりました。また、「国際連合」の旗とともに平和へのメッセージを描くこともあります。そのどれも人類が築いてきた文化への敬意を感じられます。



『東京五輪2020年 観光ガイド』 鉛筆、色鉛筆、画用紙 245×350mm 2014年制作



『国際連合70周年』 鉛筆、色鉛筆、画用紙 245×350mm 2015年制作

石田 百恵

石田 百恵 Ishida Momoe 2002年生

石田は、小学生の頃よりノートにペンや色鉛筆でお気に入りのキャラクターを描いていましたが、12才の頃から東京ディズニーランド・エレクトリカルパレード・ドリームライツを気に入り、しきりにこれをテーマに水彩で描くようになりました。その後、カラーペンによる多彩な色とあふれんばかりの言葉の洪水、キャラクターの反復を散りばめて描き出しました。彼女の作品を前にすると「まるで作者の頭の中をのぞいている」ような、絵画の喜びに浸れる魅力があります。



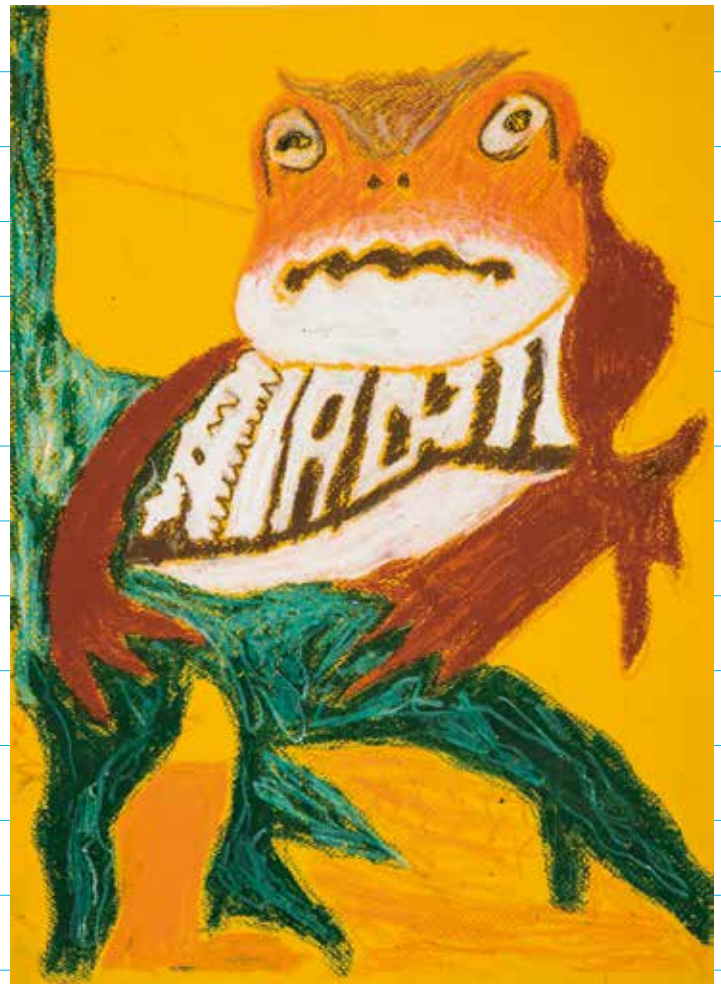
『無題』 ペン、紙 310×440mm 2020年制作



『無題』 ペン、紙 310×440mm 2021年制作



『無題』 ペン、紙 310×440mm 2020年制作



『カエル』 クレパス、色画用紙 542×392mm 2019年制作

山川 隆晟



『醍醐寺参天堂・観音堂』 鉛筆、色鉛筆、画用紙 245×350mm 2022年制作

ご家族さま
より寄稿

子育ての日々を振り返って

久保 一恵

●保育園でのお絵描きタイム

天才アートのアトリエ会に入会して五年が過ぎました。毎回、作家の方々の力強い個性あふれる作品に刺激を受け、楽しく通っています。

今回、寄稿のお話を頂き、息子直己なおきとの三十六年の日々をゆくり振り返ってみました。息子直己は、我が家の次男として一九八六年八月十一日に誕生しました。

人見知りが激しいことと言葉が少し遅いこと以外、長男と比べあまり変わりなく育っていたようにみえましたが、一歳半健診で自閉的傾向の強い知的障害と診断されました。その際、集団生活に早くから慣れさせた方がよいとのアドバイスを受け、二歳で保育園に入園しました。

保育園では、みんなの輪に入ることなく、いつもポツンと一人で居るように思います。また、入園当初からお昼寝をしない子でした。そんな直己のことを氣にかけてくださっていた担任の先生が、ある日「なお君、みんながお昼寝したら、先生と一緒に絵描きしようか」と誘ってくださいました。

その日から、寝静まったお部屋の片隅で先生と並んで絵描きタイムが始まりました。その時間だけは生き生きして、実家で飼っている犬の絵などを描いていたようです。その時間は、卒園するまで続きました。



2004年、ギャラリフで初めての個展開催

私の記憶では、一度もお昼寝しないまま卒園したように思います。その頃から、主人や私と一緒に過ごす時間は、必ずお絵描きタイムでした。絵本を持って来て、一緒に描いていました。

鉛筆で絵を描いて、クレヨンで色を塗って、ハサミで切り抜く。ハサミも小さい頃から上手に使いこなせていたように思います。

●アトリエウーフへの入会と初めての個展

小学校は、地域の普通学級で六年間過ごしました。その頃から描く絵が少しずつ変化していき、絵本ではなく、身近な人を描くようになりました。校長先生、教頭先生、用務員さん、PTAの会長さんとおじさんばかり描いていた時期もありました。

どの絵もすべて形に切ってストックするので、ファイルや箱がどんどん増えていき

ました。中学は、育成学級のある地域外の学校へ通いました。

ある時、京都新聞に

山科にある絵画教室「アトリエウーフ」が紹介されていました。

直己と一緒に見学に行き、障害のあるなしに関係なく通える絵画教室の雰囲気と先生のお人柄に触れ入会を決めました。現在も通っています。コロナで人数制限がされていますが、それまでは、直己の通う土曜日の午前中は園児さんが多く、直己の机に集まって来て、「ドラえもん、描いて」「犬、描いて」と言ってくるようです。

また、定年を過ぎて絵を始められたおじさんと隣同士になり、帰りにお互いの似顔絵を交換したり…。

アトリエウーフの先生のお薦めもあり、白河総合支援学校に在学中、寺町京極の「ギャラリフ」で初めての個展を開くことができました。今までためてきた絵をたくさんの方に見ていただける機会でしたし、本人にとって初めての貴重な体験でした。その後の自信にもつながったと思います。

●直己との三十六年を振り返って

卒業後、就労支援B型のアトリエともに入所しました。そこでは、主に商品の下絵などを描いていました。フェルトで作った野菜シリーズのティッシュケースやキーホルダー、ブックマーク（しおり）、バザー



2006年、かんでんコラボアートで審査員特別賞受賞

や手作り市、ほっとハートフレンドズにも置いていただいていたしました。

アトリエともでの十年が過ぎた頃、同じ施設に居た方が他に移られたりするのを見て、「他の所で違う仕事をしてみたい」と言い出しました。

三年前から伏見のいたはし学園でパンの具材作りなどに励んでいます。日々の生活の中で絵を描くことが少なくなった分、天才アートKYOTOの月一回とアトリエウーフの月二回の時間は、直己にとつととても大切なひとときです。直己と歩いてきた三十六年を振り返って、改めて思うこと…。

ゆくりではあつたけれど、成長していく息子の小さな歩幅に合わせて、もつとゆつたりとした気持ちで一緒に歩いてあげればよかったと、何かとても急いで子育てしてきたような…。時間はたつぷりあつたはずなのに。

私の手の中にすっぽり収まったあの小さな小さい手は、あの時だけのものだったのにと。



2019年、art space co-jinでの油絵の個展

トピックス

レポート

一般財団法人NISHA財団 やまより事業助成！

2022年10月7日、一般財団法人NISHA財団さま（以下NISHA財団）と当機構は、障碍のある人の芸術活動の推進と社会参加を促進し、さらには共生社会の実現に資することを目的として、芸術創作活動等の支援に関する協定を締結しました。本協定は、NISHA財団さまが、障碍のある人の豊かな自立と社会参加によるノーマリゼーション社会の実現を目指す当機構の活動理念に賛同され、作家諸氏の芸術創作活動や作品展覧会、情報発信等の諸事業



左・角谷理事長(天才アート KYOTO)、右・鈴木理事長(NISSHA 財団)

に助成・支援することを定めています。京都に本拠地を置く両者の提携により、文化・芸術の地域貢献と共生社会のモデルを構築し、サステナブルな社会の実現を目指してまいります。

一般財団法人NISHA財団やまより紹介

2009年1月、文化・芸術に関する助成・支援などを通じて、広く文化・芸術の継承、振興および向上発展に寄与することを目的として設立されました。具体的な活動として、NISHA印刷歴史館の一般公開や文化セミナー・ワークショップの開催、Webマガジン「AMeet」の発行、PATinKyoto 京都版画トリエンナーレの主催や各種アート関連イベントの助成・支援など、次世代の育成を中心とした幅広い活動を続けておられます。

なんたん環境村さまと契約

9月1日（木）、合同会社自然農法なんたん環境村さまと当機構において、「著作物利用許諾」の契約を交わしました。

これは、同社が生産・販売する「パピヤ茶」のパッケージに使用される、当機構登録作家・庄野隆太さんの作品の利用許諾に関するものです。今後、販売数に応じて対価が支払われることになります。

本件は、作品アーカイブの利用を推進する当機構にとって、山田繊維さまの「ふろしき」に続く事例の第2号となり、今後さらに広がっていきたいと考えています。

「京都市ふるさと納税」の 返礼品に採用！



天才アートKYOTOの作品原画や複製画・グッズ類が、「京都市ふるさと納税」返礼品に採用されました。取扱の返礼品は以下のとおりです。

- 1 作品原画限定5作品。各1点ずつ。
 - 2 オリジナル高精細複製画限定8作品。各1点ずつ。
 - 3 オリジナルふろしき2作品。各50点ずつ。
 - 4 オリジナル京扇子2作品。各10点ずつ。
 - 5 絵付け和ろうそく5点セット。箱入1点、額入2点、計3点。
 - 6 クリアファイル9点セット。各30セット。
 - 7 ポストカード10点セット。各30セット。
- 詳しくは、ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」の天才アート出品ページをご覧ください。 <https://www.furusato-tax.jp/product/detail/26100/5588097>

muratec



その夢は、未来に続く。

ムラテックは未来を見据えた柔軟な発想力と先進の技術力で、豊かで夢ある社会の実現をめざします。

村田機械株式会社

本社／京都市伏見区竹田向代町136

<https://www.muratec.jp>

- 繊維機械
- ロジスティクスシステム
- ファクトリーオートメーション
- 半導体工場FAシステム
- 工作機械
- シートメタル加工機
- デジタル複合機／情報機器

原画作品レンタルのご案内

当機構では、2011年の活動開始以来、継続して作品の収蔵に努めてきました。現在、42名の登録作家のエネルギーな創作活動のもと、収蔵作品は4500点余に達しています。

作品テーマは多様、かつ作風もきわめて個性的で、観る人をして「このようなスタイルの作品は初めて！」と新鮮な感動をもつて迎えてられています。さらに、特別展への出展依頼や美術専門誌にも取り上げられるなど評価も高まっており、個人の住まいや会社のロビーなどに飾ることで、訪れる人を魅了し話題になっています。

レンタルによる収益の一部を作家に還元し、作家の経済的自立にも資するようにしているため、企業のCSRにも貢献します。費用は、四つ切画用紙サイズやF10号キャンパスサイズで年2・5万円からです。作品の選択は、HPの「作品アーカイブ」



中丹総合医療センター看護専門学校1Fロビーの作品

から選んでいただくか、「きたアトリエ」で直接見ていただくこともできます。

なお、作品のご購入を希望される場合も同様にご相談させていただきます。

* 作品レンタルご採用企業さま実績…(株)SCREENホールディングス・洛和会音羽病院・中丹総合医療センター看護専門学校・(株)村田製作所・(株)堀場製作所(予定)

会員・寄付およびボランティアさんを募集しています

障碍のある人のアート創作活動を推進するために、作品を創る環境を整え、作品をアーカイブ（記録・保存）し、作品を商品化するアイデアを出して実現させていくこと、活動をPRしていくこと…など、サポートしていただけることはたくさんあります。アートを勉強中の学生さん、さまざまな分野で活躍されている社会人の皆さん、社会貢献に興味のある方、特技やノウハウを活かして私たちの活動にぜひ参加してください。詳しくはホームページをご覧ください。
<http://tensai-art-kyoto>

会報広告主さま募集中！

『会報 天才アート』は、展示会の予告や報告をはじめ、さまざまな活動報告、登録作家の作品紹介やご家族からの寄稿文、関連するアート情報を掲載しています。

会報の発行部数は毎号4,000部で、会

員・協賛団体、関係機関、各地の美術館などに配布・配架をしています。

当機構の活動にご賛同いただける企業さまや団体・組織の広告協賛を募集しています。ぜひともご協力をお願いします。

1枠(55×22mm)…1万円(年3〜4回掲載)

●お問い合わせ・お申し込みは、

info@tensai-art-kyoto.jp

〈編集後記〉

4月の株式会社SCREENホールディングスさまに続き、一般財団法人ZSSA財団さまと「障碍のある人の芸術創作活動の支援に関する協定」を交わしました。他にも京都の企業さまや各種団体さまから支援をいただくようになりました。これは当機構の活動が認められた以上に、所属作家さまの創作活動・作品が認められたことに他なりません。

この期待にお応えできるよう、更なる創作活動の支援と対外的な発表、広報活動にまい進していきます。いと決意を新たにしています。

【表紙の作品について】

ゆうだいは、元々は画用紙に色鉛筆で制作していましたが、昨年天才アートKYOTOに所属してから、キャンパスにアクリルガッシュで風景を描くようになりました。風景は彼自身が撮影した写真を元に描きますが、どれも写っていた人や細部は省略します。サンガスタジアムが描かれている本作は、鮮やかな色の人けのないベンチが青空と対比するように、どこか日悪夢へと誘っているようです。



『きょうとふかめおかしサンガスタジアム』
ゆうだい YUDAI 1998年生
キャンパス・アクリル絵の具 606x727mm
2022年制作

画材・額縁
画箋堂
京都・河原町五条

一級建築士事務所
町家・古民家再生 / マンション改修
**(株)共立ホーム
エンジニアリング**
06 (6788) 5402 kap@hyper.ocn.ne.jp

Kuretake

京都上鳥羽
の
印刷会社

MORI
(有)森田美術印刷

京都市南区上鳥羽火打形町12 ☎ 075-692-3131

妙心寺 塔頭

養徳院

永代供養のお寺 075-461-2898

Yoshimura
Yoshimura Construction co., Ltd.

吉村建設工業(株)

京都市中京区西ノ京小倉町135番地
075-802-1360

SCREEN
株式会社 SCREEN ホールディングス



夢、そして誇り。この街で…
洛和会ヘルスケアシステム®

洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院 洛和会音羽記念病院
洛和会音羽リハビリテーション病院 洛和会東寺南病院